

正社員の増加

10月31日に発表された総務省「労働力調査(基本集計)」9月分によると、役員を除く雇用者5,511万人のうち、正規の職員・従業員(以下「正社員」という。)は3,483万人(男性2,337万人、女性1,146万人)で、前年同月に比べ76万人の増加となっている。非正規の職員・従業員(以下「非正社員」という。)は2,028万人(男性646万人、女性1,382万人)で、2万人の減少となっている。

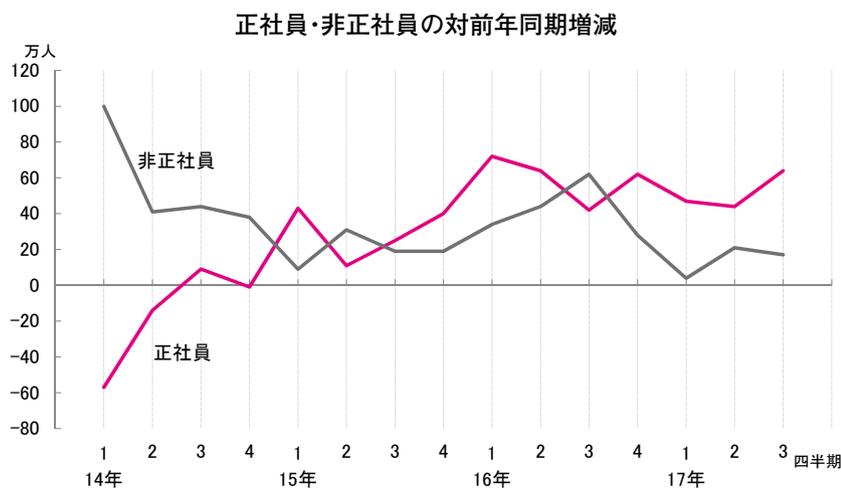
労働力調査の年平均結果でみると、正社員は2008年以降2014年まで7年連続減少していたが、2015年以降は増加に転じている。この間、非正社員は2009年を除き増加しているが、2015年、2016年の増加幅は正社員を下回っている。

ここでは、最近の正社員の増加に着目して、2014年以降について「労働力調査(基本集計)」の四半期平均の統計^注によりみることにする。

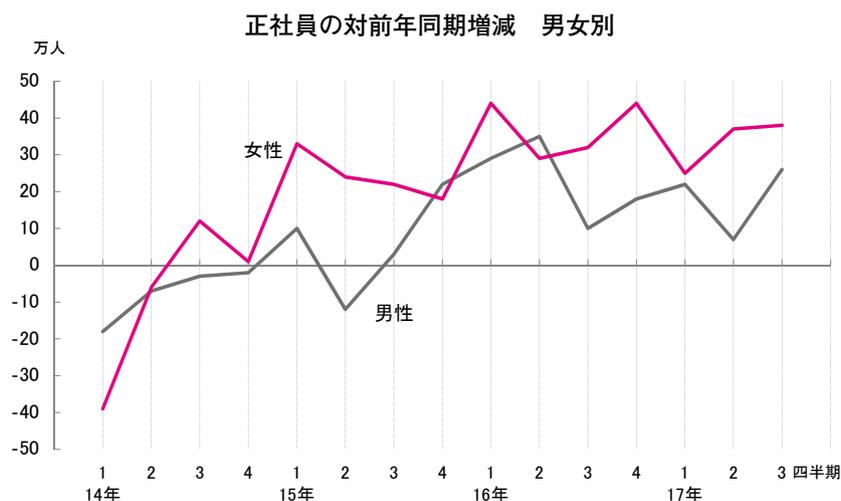
まず、正社員をみると、2014年第2四半期以前は減少であったが、2014年第3四半期以降はおおむね増加で推移し、増加幅は拡大傾向にある。一方、

非正社員は増加で推移しているものの、2016年第4四半期以降は正社員の増加幅を下回っている。

次に、正社員を男女別にみると、女性は2014年第3四半期以降増加で推移しており、増加幅は拡大傾向にある。男性は少し遅れて2015年第3四半期以降増加で推移している。また、女性の増加幅はほぼ全期間にわたり男性の増加幅を上回っている。



最後に、主な産業の正社員の増減をみると、直近の2017年第3四半期では、建設業で11万人増、製造業で16万人増、卸売業、小売業で12万人増、医療、福祉で4万人増などとなっている。



注 e-Stat(政府統計の総合窓口)の「労働力調査(基本集計)」から取得した実数より前年同期増減を算出した。2015年第4四半期～2016年第4四半期は新基準(2015年国勢調査)のベンチマーク人口に基づく遡及値。

(調査部 統計解析担当)